路線、合計72・5キロ。

募集要項によると、これら路線の維持管理・運営と改築業務を一括して民間に任せる。維持管理にPFI方式、対象路線のうち知多4路線改築業務にはコンストラクション・マネジメント（CM）方式を採用する。また、事業区域内外で民間からの提案事業を受け入れる。運営権対価の基準額は1219億7700万円以上。

事業期間は各路線の料金徴収期間だが、大規模更新が必要となった場は、全額が事業者に帰属。各年次の実績料金収入が計画料金収入を上回る場合、差異の6％以内が事業者に付与される。

CM方式で実施する改築業務は、武豊北インターチェンジ（仮称）新設、大府パーキングエリア（PA）（下り線）（仮称）と阿久比PA（上り線）（同）の新設、橋梁床版防水工事など。オープンブック方式を前提としたコストプラスマネジメントフィーにより、公社が事業者に費用を支払う。

買収などで支援する。

応募できるのは、単体企業か企業グループ。単体企業とグループ代表企業は、国内外のインフラ事業、不動産開発事業で一定の出資かマネジメント業務を行った実績、または国内でPFI事業を実施した実績が条件。

審査は、学識経験者らで構成する民間事業者選定委員会（委員長・椎名武雄日本IBM名誉相談役）が担当する。

参加申請受け付け後は、16年2月中旬に1次審査結果を通知。通過者

鴻池組に決まる

中部整備局

伊勢・朝熊地区関連施設

中部地方整備局は一般競争入札を行った伊勢・朝熊地区関連施設（仮称）組に決定した。落札金額は22億2000万円。開札は9日。

伊勢志摩サミットの開催に合わせ、三重県営サンアリーナ（RC造3階建て延べ約2万4300平方㍍）内に設置する国能を補完する施設を建設する。

規模はS造2階建て延べ7986平方㍍。建設地は三重県伊勢市朝熊町3600の6ほか。工期は16年3月31日。設計は中部整備局営繕部。

静岡市

エム・エムブリッジに

梅ヶ島温泉昭和線　大河内橋上部

静岡市は、一般競争入札を行った梅ヶ島温泉昭和線（大河内橋）上部工事の落札者をエム・エムブリッジに決定した。落札金額は20億5500万円。11月議会の議決後に契約する。開札は10月22日。

概要は工事延長165・5㍍。橋長165・5㍍、橋幅12・5㍍、橋梁上部工（下路式ニールセンローゼ橋）。工場製作工、鋼橋架設工、床版工。工期は18年11月30日。工事場所は葵区渡。

43人が課題に挑戦

トーエネック　設計・積算競技会

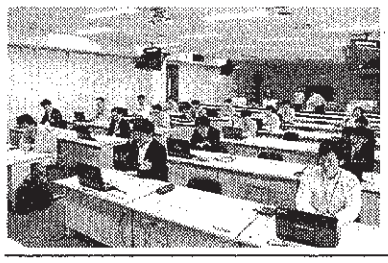
トーエネックは14日、営業部門設計・積算競技会を名古屋市南区の同社教育センターで開いた。本店と各本部・支店から43人が参加し、培った技術を競った＝写真。

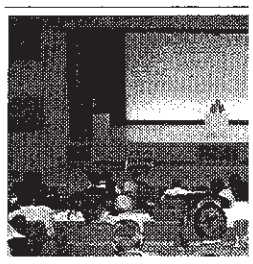
同競技会は、設計・積算レベルの検証と、技術者の能力向上を狙いに毎年開催されている。

開会式であいさつした高木勲取締役常務執行役員営業本部長は「建物の設備更新ではデザインビルド方式が多くなり、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）も浸透、設計施工の一元化による効率が求められている。これまで以上にコストダウン、VE提案の実力が必要。競技会ではリラックスし、日ごろの成果を発揮してほしい」と激励した。

この後、内線設計部門14人、同積算部門20人、空調管積算部門9人がそれぞれの課題に挑んだ。与えられた課題は、内線設計が延べ約9400平方㍍の病院における高圧、受変電設備の設計、内線積算が約500平方㍍の事務所ビル電気設備全般の積算、空調管積算が約1200平方㍍の工場における空調管設備の積算。参加者は真剣な面持ちで取り組んでいた。

審査は後日行われ、来年1月に各賞が決まる。





年度橋梁技術発表会および講演会」を開いた＝写真。鋼橋建設技術の発展と鋼橋の魅力をアピールするのが目的で、10月9日の東京地区を皮切りに

新潟から全国へ

開発者が語るメードイン新潟登録技術

防草緑化一体化シート

皆建　新出（しんで）　倫規（ともの）

暑さ寒さや乾燥に強く、光と水だけで生き、土がなくても育つという「スナゴケ」の特性を利用した皆建（新潟県胎内市、皆川一二社長）開発の土木工事向け緑化製品「防草緑化一体化シート」が県内の道路で採用され始めた。世に出すに当たり社長の石腕となり力を注いだ同社緑化推進事業部の新出倫規氏に製品の特徴などを語ってもらった。

スナゴケ利用でメンテ不要

交通量多く　危険な場所に有効

コケは日本国内だけでも2500種類あるといわれている。その中でもスナゴケは乾燥や強風、温度に影響されずに繁殖する。氷点下20度からセ氏70度までの環境で生育が可能で、水がない状況でも自ら休眠状態になり何年にもわたり命をつなぐ強力な生命力を持ち、自重の20倍もの保水力も兼ね合わせている。

このため、緑化資材として注目を集めており、栽培技術も確立されていることから、断熱効果や気温緩和効果を期待され、屋上緑化や壁に設置するタイプが数多く製品化されている。

防草緑化一体化シートもその系譜に連なる製品といえる。だが、道路の緑地帯の防草を兼ねた緑化にスナゴケを利用している製品は全国でもほとんど例がなく、先駆的な取り組みと自負している。

製品は、基盤（防草シート）と加工済接着剤、乾燥スナゴケ、ネットの3層構造。スナゴケと防草シートを併用しているので、道路の緑地帯や路側帯に設置してしまえばコケのみが青々と茂り、雑草はほとんど生えない。施工後1年半ほどで設置場所はスナゴケで被われる。

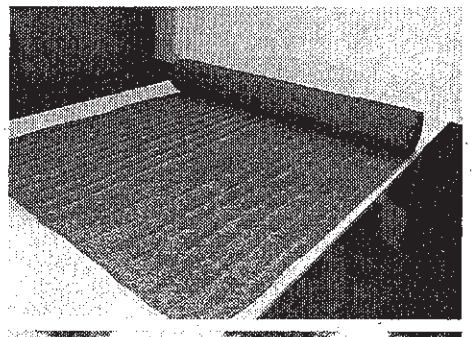
施工方法は、下地が土面か砂面の時は、土壌を平面にして水たまりができないように転圧をかけて中央部を少し山高にする、その後、シートを敷きアンカーピンで固定するだけ。両端に縁石がある場合は、剝がれ防止剤で固定する。

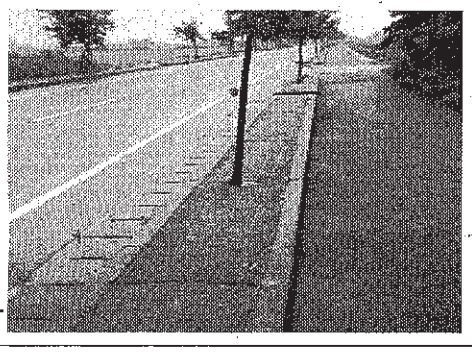
下地がコンクリートの場合は、水洗いをして、ほこり、ちりを取り除いた後にシートを専用接着剤で固定する。

下地がコンクリートで勾配がある場所でも角度が70度以下なら特に問題なく固定できる。

緑地帯の緑化は地被植物の植え込みや高、中、低木の植栽が一般的。植栽の種類によっては堆肥（たいひ）、水やり、刈り込みなどのメンテナンスが必要で、さらに、有害な雑草が生えてきた場合は除草作業に人手を頼らねばならないという課題を抱えている。だが、防草緑化一体化シートを使えばこうした課題はほぼ解決できる。

雑草が茂るとドライバーの視界が悪くなる場所、交通量の多い緑地帯で雑草を除草する作業員の安全が確保できない場所、本当は緑化したいが雑草が生えて困るのでコンクリート化されている場所に特に効果が高いと考えている。





防草緑化一体シート①と施工後1年半経過した状態

既存の緑化工法より施工コストが安く上がるのも特徴の一つ。例えば、クマザサを使った緑化と比較すると直接工事費は半分以下に抑えることができる。

メードイン新潟に登録されたのは今年8月。設置場所は胎内市内の県道の緑地帯などまだ数件だが、新たに新潟県新発田市内の県道の交差点内の緑地帯への採用が決まった。

現場は信号機のない交差点。雑草が伸びて視界が悪くドライバー、歩行者両方にとって危険で、園児達の通学路にもなっているため近隣住民から苦情が出ている場所だった。既にサザンカが植えてあり、取り除くことなくそのまま残してほしいと要望されているが、当社の製品はそれをかなえることができる。住民の期待に応えられるよう施工に努めたい。

大成建設2支店

非常用電源の稼働など確認

名古屋支店

大成建設名古屋支店は14日、全社事業継続計画（BCP）訓練に参加し、東海・東南海・南海連動地震発生を想定した初動・応急対応に取り組んだ＝写真。名古屋支店からは552人が参加。日本建設業連合会（日建連）や発注者との連携訓練、

支店の外部に本部立ち上げ

北信越支店

大成建設北信越支店（守田進執行役員支店長）は14日、新潟県下越を震源とする震度6強の地震が発生し、県内全域に被害が出ているという想定で、全社事業継続計画（BCP）訓練を実施した＝写真。

北信越支店の全社員2